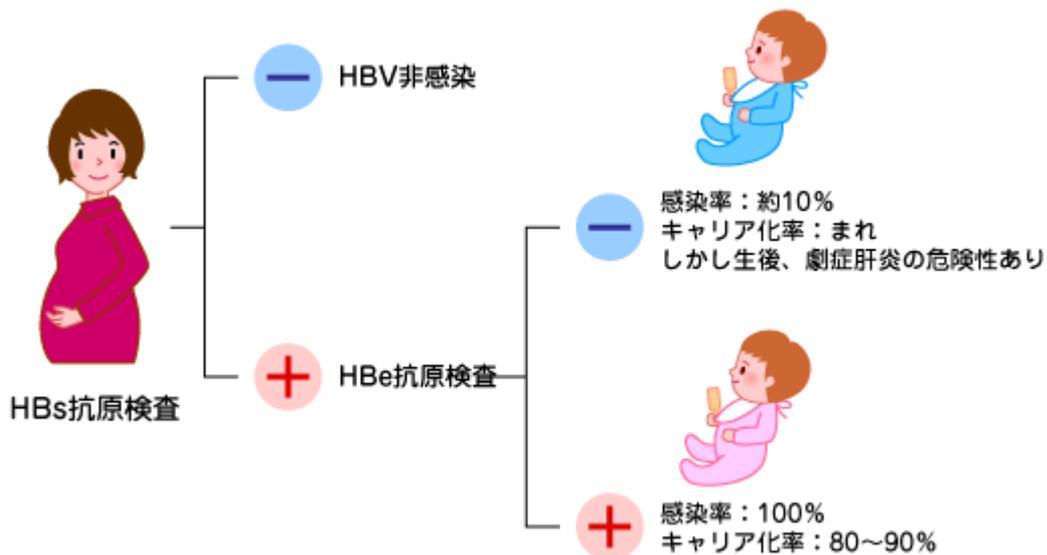


■HBV の母子感染を防止するために

女性の方は妊娠の際に、必ず HBV に感染していないかどうか検査をしましょう。HBV に感染していることがわかった人（つまり HBs 抗原陽性（+））は引きつづいて、赤ちゃんへの感染のしやすさの目安となる HBe 抗原検査を必ず受けましょう。母子感染防止措置を行わなかった場合、母親が HBe 抗原陽性（+）のとき、赤ちゃんへの HBV 感染率は 100%です。このうちの 80~90% が HBV キャリアとなります。母親が HBe 抗原陰性（-）のときは、赤ちゃんへの感染率は 10%程度で、キャリア化することもほとんどありません。しかし、ごくまれに生後 2~3 ヶ月で劇症肝炎になる危険性があります（下図参照）。したがって、感染防止策は必ず行うようにしましょう。

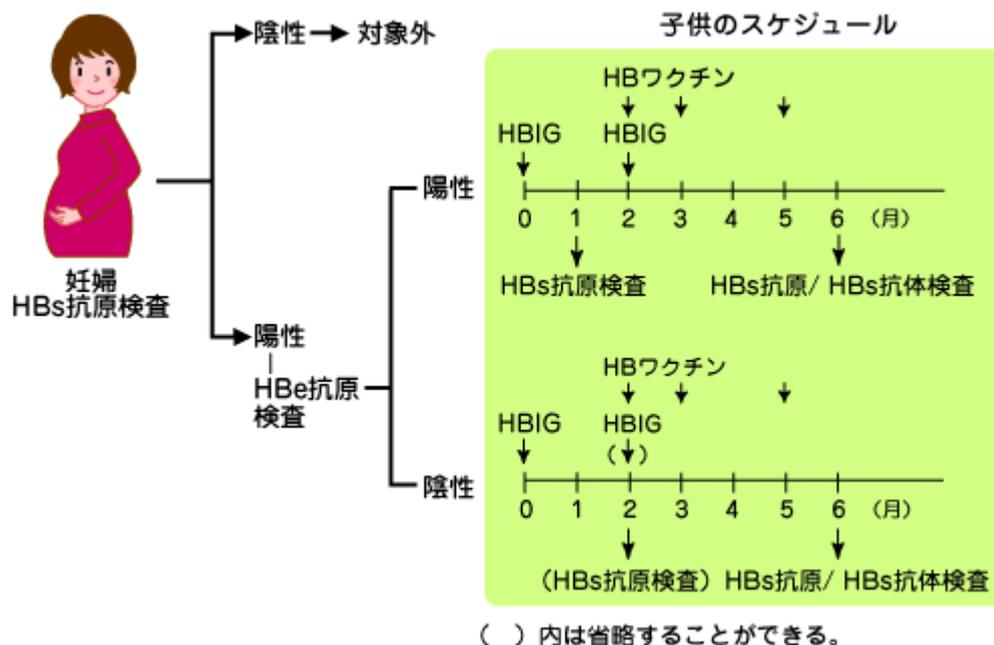
キャリアの人の出産（母子感染防止策をとらなかった場合）



■母子感染の防止方法

妊娠中にお母さんの血液中の HBV が、胎盤を通して赤ちゃんの血液に移ることはあまりなく、大部分は分娩時、つまり赤ちゃんが産道を通る時にお母さんの血液にさらされることによって感染が起これると考えられています。HBV の母子感染を防止するためには、産まれてきた赤ちゃんに、HBV に対する抗体を含む高力価 HBs ヒト免疫グロブリン (HBIG) や B 型肝炎ワクチン (HB ワクチン) を接種することが必要です。これらの感染防止策によって、ほとんどの母子感染を防ぐことができます。

母子感染防止策の基本的なプログラム



厚生労働省作成 B 型肝炎 (一般的な Q&A) 改訂第 2 版